

東京社保協ニュース

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

生存権裁判を支える東京連絡会第11回総会



6月23日、生存権裁判を支える東京連絡会第11回総会をけんせつプラザ東京で開催、77人が参加しました。冒頭、「新生存権裁判の意義と勝利の展望」をテーマに、宇都宮健児弁護士（新生存権裁判東京弁護団長）が講演。

この間、自公政権によって生活保護基準の引き下げが連続的に行われてきた実態を告発し、2013年8月からの1年8か月間で「デフレ調整580億円分」「歪み調整90億円分」の削減は史上最大の大幅引き下げになったこと。

2012年には、マスコミを動員してのバッシング報道と、国会での恣意的な質問や発言で国民の中に「生活保護は引き下げてもいい」との悪感情を植え付けたうえでの引き下げであったこと。

物価が下がったから「デフレ調整」を行ったとの説明も意図的なもので、一番下がったものはパソコンで、次いで電化製品、食品や日用品は値段

が上がっていること。2014年には消費税が8%に引き上げられている中での基準引き下げは明らかに違法であることを明らかにしました。

弁護団長として裁判で全力をあげると同時に連絡会と連携し裁判に勝利しようと力強く呼びかけました。

講演後、弁護団事務局長の田所弁護士より「新生存権裁判東京」の経過報告、寺川事務局長が情勢と生存権裁判の総括、今後の方針として裁判支援に向けて、組織・財政の強化や宣伝に取り組むなどの提起を行い、地域連絡会と原告から裁判勝利に向けた決意が語られ、全体の拍手で確認されました。

なお、東京社保協からは代表委員に須田会長、事務局長に寺川事務局長が選出されました。

自民公明政権による生活保護基準の連続的引き下げ

政権	年度	引き下げ幅
小泉政権	2003年	生活扶助基準を0.9%
	2004年	生活扶助基準を0.2%
	2004年	高齢加算を段階的に縮小し、2006年度に廃止
	2005年	母子加算を段階的に縮小し、2009年4月に廃止、2009年12月に復活
安倍政権	2013年	3年かけて670億円削減。平均6.5%、最大10%の引き下げ
	2015年	住宅扶助基準、冬季加算の引き下げ
	2018年	10月から3年かけて160億円の削減、平均1.8%・最大5%の引き下げ

都議会第2回定例会開会日行動



荻原東京地評議長の開会あいさつ後、都議会各会派から、畔上三和子日本共産党都議会議員があ

いさつし、都政の透明化と都民の生活を守り応援する施策の充実を訴えました。

その後、築地市場移転問題（築地パレード実行委員会）、オスプレイ横田配備問題（東京平和委員会）、新生存権裁判のたたかいの紹介（都生連）、中学校道徳教科書採択年にあたっての取り組み（都教組）、の4団体から決意表明が行われました。

いさつし、都政の透明化と都民の生活を守り応援する施策の充実を訴えました。

その後、築地市場移転問題（築地パレード実行委員会）、オスプレイ横田配備問題（東京平和委員会）、新生存権裁判のたたかいの紹介（都生連）、中学校道徳教科書採択年にあたっての取り組み（都教組）、の4団体から決意表明が行われました。

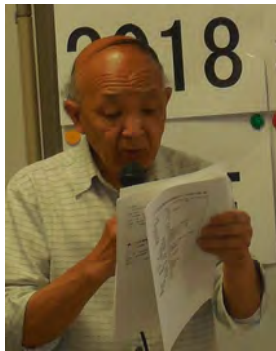


各地域・団体の取り組み

八王子社保協

八王子社保協は5月26日、2018年度総会を開き17人が参加しました。

来賓の日本共産党八王子市議団市川克宏議員が、「来年は一斉地方選挙、参議院選挙があり、安倍政権を倒し、社会保障充実の日本へ舵を切るチャンスです」とあいさつしました。



この日は、中央線がストップして参加できない団体もありましたが、医療、介護、歯科、年金、生活保護などの分野から、八王子において深刻化する貧困の問題が次々と報告されました。

総会では、高齢期運動連絡会やフードバンクなどの団体ともつながり合って、社会保障充実に向けた活動をいっそう大きく進めることを確認しました。

(八王子社保協ニュースより)

町田社保協



町田社保協は、5月13日に「第9回まちだなんでも相談会」を「ぼっぽ町田」で開催しました。

参加者は、弁護士、司法書士、守る会、年者組合、新婦人、東京土建町田支部、町田地区労など15団体、約40人でした。

当日は、今にも雨が降り出しそうでしたが、児童保育分会の「シャボン玉遊び」、土建の「木っ

端遊び」など、子どもと一緒に遊べるコーナーも設け、相談者は電話相談2人を含め33人、相談件数は41件でした。

今回の会場が、通行人から見えにくい所でしたので、会場前の道路でハンドマイクやチラシ配りをした結果、相談者の半数は通りすがりに訪れた方でした。

相談内容は、相続が9件で一番多く、次に税金が7件、三番目に年金の4件でした。「病気が進行し、もうすぐ60歳なので定年退職し、年金を早めに請求したい」方や、障害者の方からは「障害年金」の請求方法などの相談でした。また、生活保護申請の相談が2件、共同墓地に入りたい、交通事故など、相談内容は多岐にわたりました。

(八柳ひろこ事務局長)

中野社保協



5月24日(木)、通算89回目となる「なんでも相談会」を、弁護士・区議など21人の参加で中野駅北口広場で開催しました。

賃金未払いで相談にみえた40代の男性は、「規定の労働時間に達しなければ減給。残業代がもらえないので残業しないと行ったところ解雇になった」という相談や、生保申請予定の40代の男性は「4～5年前に生活に困り銀行口座を売却した。犯罪などに使われたら罪になるのか」という相談など、9件の相談がありました。



次回は6月28日(木)を予定しています。

(実行委員会ニュースより)

渋谷社保協



渋谷社保協は5月11日、社会保障改善を求める宣伝・署名行動を、7団体25人の参加で幡ヶ谷の6号通り商店街の入口で行いました。

署名は、「社会保障は国の責任で」署名（25条署名）と「都立病院の直営継続」（独法化反対）を求める署名に取り組みました。

署名・宣伝用のプラスターや手作りのボードを掲げてのアピールや、ハンドマイクの呼びかけな



どを通じて、1時間の行動で25条署名が41筆、都立病院署名が34筆が集まりました。

この行動では、「命を守る署名です」と呼びかけると、若い世代の方も比較的応じてくれました。また、森友・加計疑惑の安倍内閣への国民の怒りも広がっているように感じられました。



なんでも相談は雨で打ち切りに

恒例の渋谷社保協なんでも相談会は、4月23日に渋谷駅西口モヤイ像前で、8団体11人が参加して開催しました。

開始してから間もなく雨が降ってきて、残念ながら途中で打ち切りとなりました。

寄せられた相談は、法律と生活相談の2件でした。

(渋谷社保協ニュースより)



「社会保障」誌の購読を

「資料と解説」が豊富で、激動する情勢や社会保障制度がよくわかる！役に立つ！学習や運動にぜひご購読を

- 定期購読（年6回）
3000円（送料別）
1部500円（送料別）
- 申込みは東京社保協へ
TEL03-5395-3165
FAX03-3946-6823
*ホームページからも注文できます



巣鴨定例宣伝行動



6月14日(木)、定例の「4の日」宣伝行動を巣鴨駅前で行いました。

この行動には、全体で43人が参加し、その内訳は、中央団体8人、東京35人(内東京土建24人)となりました。

各団体の代表が訴えを行いながら、年金相談を行い、併せて、「家計の負担が大きいのは」を問

うシール投票を行い、44人が投票してくれました。その中で、最も投票が多かったのは、①食費(15)②医療費(9)③税金(8)の順でした。先月に引き続き「医療費負担」が重いことが明らかになりました。

この行動では、署名ハガキ付きティッシュを約3000個配布し、署名96筆(25条署名81筆、3千万署名15筆)を集約しました。



「4の日」定例宣伝行動

- ・7月14日(土)11時～13時
巣鴨地蔵通り商店街入口
- ・8月14日(火)12時～13時
巣鴨駅
- ・9月14日(金)12時～13時
巣鴨駅

主催:東京社保協・中央社保協

中央社保学校

9月6日(木)13:30～8日(土)
会場:ピアザ淡海ホール(滋賀県)
＜学習講演＞

- ①浜矩子氏(同志社大学院教授)
- ②武内一氏(佛教大学教授)他

主催:中央社保協

第47回東京社保学校

9月17日(祝)10:00～
講師は検討中
会場:けんせつプラザ東京

介護学習会

日時 7月29日(日)

12時半開場、13時開会

会場 東京労働会館7階 ラパスホール

講演 芝田英昭氏
(立教大学教授)

＜テーマ(仮)＞

介護保険をめぐる情勢
と「地域共生社会」

主催:介護をよくする東京の会